



TAMBA Innovative Challenge

シリ丹バレー

丹波地域の取組について

兵庫県丹波県民局・シリ丹バレー推進協議会

令和7年6月25日

丹波地域について



▶ 兵庫丹波地域の概要（令和7年2月1日現在）

人 口 95,743人（兵庫県推計人口）
世帯数 39,427世帯（〃）
面 積 870.80 km²
構成市 丹波篠山市、丹波市

▶ 丹波地域へのアクセス

兵庫県の中東部、また阪神大都市圏の近郊に位置し、神戸、大阪から電車や車で片道1時間程度でアクセスすることができる。

丹波地域について

▶ 特色ある風土・文化

地勢 本州一標高の低い中央分水界（水分れ：氷上回廊）
篠山層群：農村風景と恐竜が共存（恐竜化石）

共生：75%が森林で覆われる「森の国」
加古川、由良川、武庫川の「源流の里」

豊穡：盆地特有の気候と肥沃な土壌から生まれる特産品の数々
－丹波栗、丹波大納言小豆、丹波黒大豆、山の芋、猪肉など

伝統：古からの文化・文物が脈々と受け継がれてきた地
日本遺産（デカンショ踊り、丹波立杭焼）

交流：京街道の要衝としての歴史、半世紀に及ぶ都市農村交流

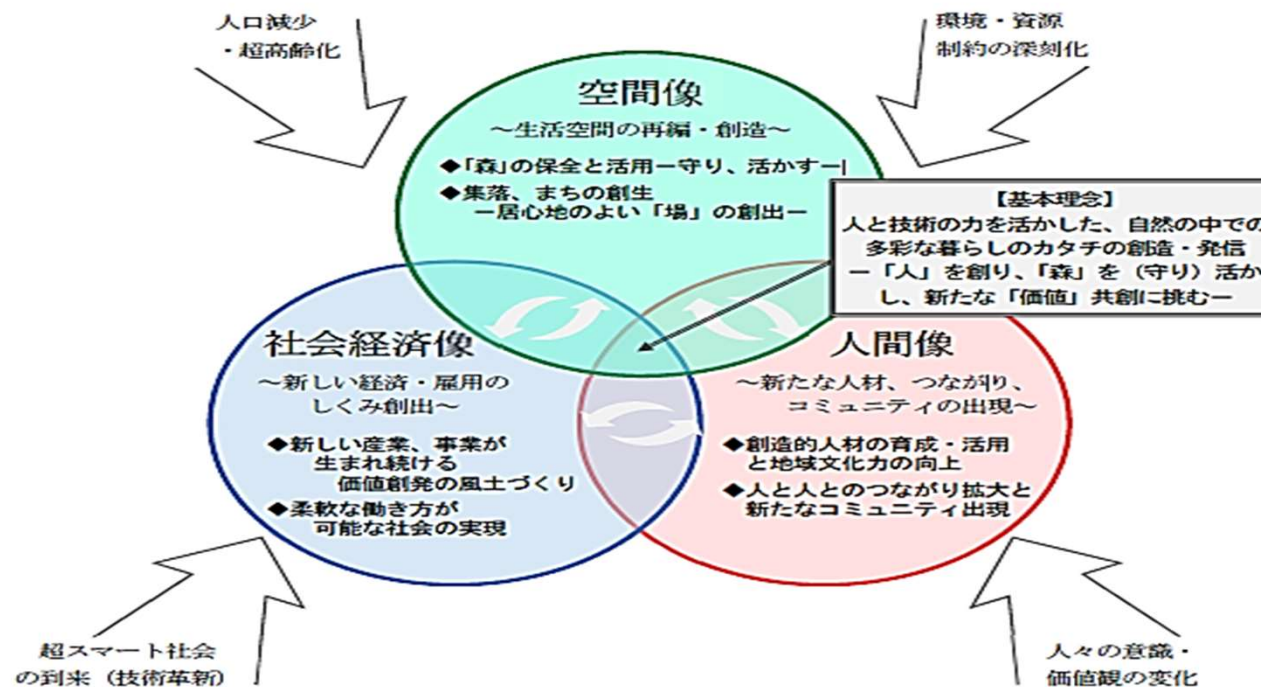
気質：温厚な人々、寛容性に富んだ風土、強い集落の絆



丹波2050地域ビジョン

▶ 2050年を展望し描いた望ましい地域の将来像（2022.3 作成）

人と技術の力を活かした、自然の中での多彩な暮らしのカタチの創造・発信
ー「人」を創り、「森」を（守り）活かし、新たな「価値」共創に挑むー



丹波2050地域ビジョン

▶ 12のシンボル・プロジェクト

今後5年間で推進すべき取組のうち、特に重要な12の事業を選定。各プロジェクト運営にあたるプロジェクトチーム設置

- 1 アクティブ・フォレスト・プロジェクト
- 2 持続可能なコミュニティ・プロジェクト
- 3 まちの拠点創造プロジェクト
- 4 たんばスマート農林業特区プロジェクト
- 5 たんばフードバレー・プロジェクト
- 6 食文化ツーリズム・プロジェクト

- 7 たんば恐竜(DMO)構想推進プロジェクト

8 シリ丹バレー構想プロジェクト

- 9 集落文化発掘・体験プロジェクト
- 10 たんばユース躍動プロジェクト
- 11 たんばスタイル(たんば暮らし)・プロジェクト
- 12 スマート・コミュニティ・プロジェクト



シリ丹バレープロジェクト 経緯

- 2020年度** **事業開始** 空家や廃校等遊休施設をワークスペースに改修し、そこに起業家を呼び込もうとするアイデアからスタート
- 2020.9.27 キックオフミーティング開催 ※コロナ禍で組織化・ネットワーク化は進展せず
 基調講演：大南 信也 氏（認定特定非営利活動法人グリーンバレー理事）
- 2021年度～** **構想発展** 「地域イノベーション・エコシステム」の形成に資する幅広い事業を盛り込んだ構想へと発展
- 2022.2.17 推進機関として、**産学官民による「シリ丹バレー推進協議会」設立**
 及び「設立記念セミナー」開催
 基調講演：金出 武雄 氏（カーネギーメロン大学 ワイタカー冠全学教授）
 題 目：素人のように考え、玄人として実行する
- 2022.3 「丹波2050地域ビジョン」のシンボルプロジェクトに選定

シリ丹バレーの理念、ゴール

- シリコンバレー → シリ丹バレー
- 産学官民が一体となって内外の力を結集し地域発イノベーションが次々と起きる地域をめざす
 - ※地域発とは：地域の人（関係人口を含む）のアイデアに基づくイノベーション、地域資源を活かしたイノベーション、地域という場で実践されるイノベーション
- 丹波で生まれたアイデアを育て、磨き上げ、付加価値の高い製品・サービスや革新的なビジネスモデルを世に送り出していく
- 次世代社会を暮らしやすく、持続可能なものにしていくうえで有益なものを生み出す



技術革新、製品開発だけでなく、地域社会の変容をめざす

**目標 2030年代初頭における活力ある
持続可能な地域社会の形成**

主要事業 4つの柱

第1の柱 ネットワーキング、交流・協業の促進

- ・シリ丹バレー推進協議会の運営・参画企業等の拡大、分科会の設置
- ・広報活動（展示会への出展等）
- ・他地域イノベーション・エコシステムとの連携
- ・丹波型事業共創コミュニティの構築

分科会Ⅰ 女性起業家ネットワーク

分科会Ⅱ スマートコミュニティ・プロジェクト

分科会Ⅲ コーキングスペース・ネットワーク

分科会Ⅳ 丹波ウッドバレー・プロジェクト

第2の柱 地域産業のDX化促進

- ・DXをテーマとしたセミナーの開催(地元金融機関等と連携)
- ・IT人材を紹介するマッチングイベントの開催(関経連等と連携)

第3の柱 起業・創業・継業の支援

- ・起業・創業等をテーマとしたセミナーの開催
- ・民間副業人材の活用・マッチング
- ・たんばLPSCチャレンジ（伴走支援事業）の開催

第4の柱 新たなビジネスの場・拠点創出

- ・コワーキング・スペース（丹波の森公苑里山スクエア等）の活用
- ・ワーケーションの推進（コワーキングスペースになりうる農家民宿等のネットワーク化）



分科会Ⅰ たんば女性起業家ネットワーク

○目的

丹波地域の女性起業家のネットワークのさらなる拡大をはかり、女性起業志望者間の交流・連携を推進し「女性が起業しやすい丹波」を目指す。

○活動報告

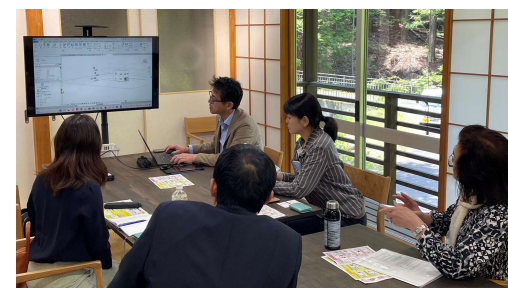
○オレゴンミッション・フォローアップ

令和5年度に実施した、米国オレゴン州ポートランド市での女性起業家との交流を契機に、オレゴン在住の邦人3名の来日に合わせ、帰国後の取組を報告するとともに、訪米していないメンバーとを繋ぐ機会を設けた。

- ・ 5/18 柳澤 恭行 氏 (Meinhardt Japan 株式会社 一級建築士)
- ・ 7/16,17 篠原 杏子 氏 (合同会社 結 代表取締役/オレゴン兵庫県人会)
- 和田 まあり氏 (Live Your Colaur Inc. 代表)

○女性のキャリアとお金の作り方セミナー(R6.12.8開催)

株式会社LIFE-D代表取締役 日向絵理香さんを講師に、女性ならではのキャリア形成や、資産運用の考え方についてオンラインでの学習会を開催。講義の後半では、各メンバーが活発に質疑・意見交換を行った。



分科会Ⅱ スマートコミュニティ・プロジェクト

○目的

暮らしやすい持続可能な地域社会の実現に向けた、デジタル技術導入のあり方について検討

○取組内容

(1) 市町DX支援パッケージの設置(兵庫県)

－目的：各市町の状況・課題に応じた取組が進められるよう支援する

Ⅰ.支援体制の構築 Ⅱ.人材育成の強化 Ⅲ.広域連携の推進 の3本柱で展開

－取組：Ⅰ.「DX推進リエゾン」の設置

Ⅱ.市町DX推進リーダーの育成

Ⅲ.ひょうご地域DX推進検討会の運営

(2) 研修会の開催(丹波県民局)

－目的：地域でのデジタル技術導入にかかる機運醸成を図る

－取組：県民局防災担当課と連携し、「**丹波地域被災者支援活動研修会**」を開催

－参加：ボランティア団体、社会福祉協議会、自治協・まち協、行政など約45名



⇒ 今後もひょうごスマートシティ推進検討会と役割分担し、
地域の課題解決に資するデジタル技術活用の機運醸成を図る

分科会Ⅲ たんばコワーキングスペース・ネットワーク

○目的

丹波地域内にあるコワーキングスペースを人々が行き交う活動拠点に位置付け、各施設の情報発信及び施設間の連携の強化を行うことで、コワーキングスペースを軸とした地域内外の多様な人材の呼び込みと交流の促進を図る。

○活動報告

○丹波エリアコワーキングツアーの開催(R6.7.21開催)

丹波地域内の5か所のコワーキングスペースを巡り、参加者がオーナーや利用者と交流することで、施設ごとの特徴を肌で感じ、自分に合うワーキングスペースを見つける機会となるツアーを実施。

参加者：7名（丹波市6名、三田市1名）※先着10名で募集

ツアー先：comado(丹波篠山市)・mocca(丹波篠山市)・iso乃家(丹波市)・Tamba Creative HUB(丹波市)・里山スクエア(丹波市)

○兵庫県内コワーキング施設交流イベント参加(R6.12.20開催)

ひょうご起業プラザが企画したイベントに、メンバー4名と事務局員1名が参加。県内のコワーキング施設事業者、関係する行政職員等計27名が豊岡市のコワーキングスペース「とど兵」にて情報交換・交流を行った。



分科会Ⅲ たんばコワーキングスペース・ネットワーク

○活動報告

OR6新規開業施設分のPR動画の作成

昨年度に引き続き、R6年度に新たに開業したコワーキングスペース2か所(ミラクルミッション、Village)について、各施設2種類の縦型動画を作成。

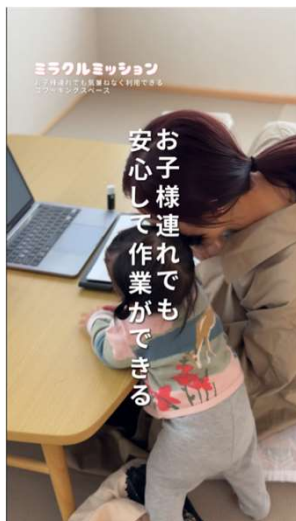
※近日、シリ丹バレー推進協議会HP及びyoutubeチャンネルにて公開予定。

ミラクルミッション

丹波市山南町岡本44

子ども連れでの利用も可。女性の活躍を支えるコワーキングスペース。

【ルームツアー】



【インタビュー】



【ルームツアー】



【インタビュー】



Village

丹波篠山市遠方16-3
やまもりサーキット内

キャンプ場の中にあるコワーキングスペース。大人数用の研修スペースも併設。

分科会Ⅲ たんばコワーキングスペース・ネットワーク



分科会Ⅳ 丹波ウッドバレー・プロジェクト

○目的

- ・丹波産木材の生産拡大、流通・加工の促進、関連産業(製材、住宅、木工、バイオマス発電等)の裾野を拡大
- ・丹波地域が一体(ネットワーク化)となり、川上～川下までワンストップで生産・流通する体制を構築し、丹波産木材のブランド化および需要拡大。
- ・丹波産木材を活用したライフスタイル・インダストリー(生活創造産業：住宅・オフィス、家具、什器、クラフト、日用品等)等、新産業の創造に向けた交流、情報交換、知識共有を実施。

○検討内容

- ① 京阪神間を含めてひとつの生活圈と捉え、木材関連産業の今後のあり方を検討。
- ② 木材関係者のリスト化（ネットワーク形成に向けた取組み）
- ③ 木材関連産業に関する情報をまとめ、地域内外の人材が関わりやすくなる仕組みの構築。
(ポータルサイト：森機応変との連携)
- ④ 山や木に関心を持ってもらうため、丹波地域のあらゆるコンテンツと掛け合わせて、地域内外に向けて発信。
- ⑤ 丹波産木材を使う価値・意味を定量化して表現できる仕組みの構築。
例：CO2削減量・木材利用立米数を数値化。ポイント制の導入。
山への貢献度を示し、木材利用のモチベーション向上。



分科会Ⅳ 丹波ウッドバレー・プロジェクト

○R6年度活動報告

◆ 木材関連製品の百貨店出展（阪急うめだ本店スーク）

○出展に向けた丹波地域視察・検討会議

日 程：6/27・28

場 所：伐採現場、(株)木栄 木材加工場
フォレスト・ドア（丹波市青垣町）

○検討会議

日 程：7/23・9/2・10/10・11/26

○阪急うめだ本店スーク出展

日 程：1/8～1/14

場 所：10階スーク広場

協 力：(株)スークカンパニー

宇野 新治 代表取締役社長

公益社団法人関西経済連合会

◆ 川西阪急百貨店における丹波産木材活用

スーク出展の繋がりにより、川西阪急のリモデルにおいて、丹波産の間伐材を用

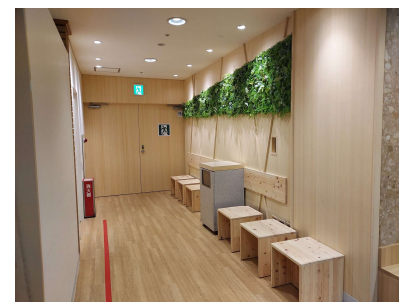
いた壁紙シート等が使用されました。（約1.54m³使用・5/16グランドオープン）



検討会議（フォレスト・ドア）



スーク出展の様子



川西阪急（壁紙シート・椅子）



川西阪急（什器・椅子）

分科会Ⅳ 丹波ウッドバレー・プロジェクト

◆ 生物多様性の回復をテーマにしたシンポジウムでの講演参加(主催 兵庫県・シリ丹バレー等)

日 程：1/31

場 所：四季の森生涯学習センター（丹波篠山市）

講演内容：「森林資源の6次産業化について」足立 龍男 代表
「関係人口が生む山林の多様性」内田 圭介 副代表
パネルディスカッション

開催結果：現地参加者106名、web配信視聴者144名



パネルディスカッションの様子

◆ 大阪ガス実験集合住宅「NEXT21」視察

日 程：3/12

場 所：NEXT21（大阪市天王寺区）

視察結果：NEXT21は、環境に配慮しつつも、健康・快適に、そして災害時の備えもある住まいを目指しており、ウッドバレーの取り組みと親和性が高く、都市部にある利点を活かし、今後都市部企業向けセミナー等会場として活用する。（6/20セミナー開催）



NEXT21視察の様子



丹波型事業共創コミュニティ形成支援事業

○目的

地域課題の解決に資するビジネスや地域資源を活かしたビジネスの創造を促進するため「丹波型事業共創コミュニティ」の形成を図る。丹波に愛着を抱いている起業家・事業家でありながら、地域コミュニティの円滑な連携や地域計画に深く入り込むコーディネーター的役割を担う人材を「事業共創パートナー」として登用し、効果的な推進を図る。地域でのビジネス創造にあたっては、地域外の専門人材の参画やメンバー間の交流・連携を促進するとともに、新たな人材の発掘・育成に取り組む。



事業共創パートナー

○安達鷹矢氏

株式会社Local PR Plan 代表取締役
創造的職人宿場町 福住 事業協同組合 代表理事

楽天を経て丹波篠山市へ移住。江戸時代の宿場町の名残を残す街道を起点に、移住者を呼び込み、古民家等を再生しつつ、開業者を増やす観光まちづくりを展開。

- ・ 地域内総生産を向上させ、まち全体を再生するリジェネラティブな観光まちづくりを目指す
- ・ 宿場町から地域の商店街だった伝統を生かしつつ、インバウンドを含めた観光業と連携させていくことを目指す
- ・ 「移住開業者」の受け入れを進める。2024年、移住してきた若者や地域外の人々に対する開業支援、開業後のサポートも行う特定地域づくり事業協働組合「創造的職人宿場町福住事業協同組合」を設立

事業共創パートナー

○出町慎氏

合同会社SAJIHAUS 代表 一級建築士
NPO法人 佐治倶楽部 代表理事

大学卒業後、丹波市との大学連携事業の立ち上げに関わり、活動を続ける中で丹波へ移住。
宿場町の名残を残す丹波市青垣町佐治地域を拠点に設計事務所を構え、地域の方々と空き家活用団体を設立。

- ・ 丹波産木材のサプライチェーンの構築による源流域に位置する農山村の森林の再生に取り組む
- ・ 空き家再生ファンドの立上げや企業投資型空き家再生事業、企業版空き家オーナー制度など空き家再生の先進モデルづくりを目指す
- ・ 地域内の事業者による面的な連携事業を構想。面的つながりをつくるネットワーク協議会と、事業展開をコーディネートする民間センターを令和7年度に設立。

おわりにーシリ丹バレーのキャッチフレーズ

これまで出会ったことのない人同士をつなぐ

Connecting total strangers to each other

異質な人同士の出会い・交流が知恵や工夫を生み出し、
新たなイノベーションの創出につながる

A new innovation could be created by an idea or ingenuity
brought about through encounter and interaction among different people

[協議会設立趣意書より]

